



講評： この作品は、設計者自身のSOHOである。京都市内の、昔の町屋割りがそのまま残る市街地に建っているが、周辺の多くの家は建て替えられており、新興住宅地のように見える場所である(写真では個性的に見えるファサードも、この街並みの中では違和感はない)。

この作品の最も優れた点は、古都になじみ深い町家空間を、若い家族が住む現代的なSOHOとして、無理なく再生させた点にある。設計者の自邸にありがちな実験的な試みは、ほとんど見られない。ゼネコンにも5年勤めたという経歴を聞くと納得できるが、他の人が住んでも使いやすそうで、無理のない快適さを感じられる。プランや意匠とのバランスも良い。構造については、主要躯体をできるだけ利用する一方で、補強金物や鉄骨柱、構造用合板などを駆使して耐震補強を行っている。構造家に耐震設計書を作成してもらい、京都市の耐震化補助金も利用するなど、専門家としての基本はきちんと押さえている。

全体プランの合理性はもちろんであるが、一階の中庭や裏庭、縁や物干の見え方に対する設計も丁寧で、破綻がない。和紙を張った和室の建具や壁は、庭からの光を柔らかく反射し、京都ならではの雰囲気を感じさせる。

二階テラスの木製デッキ床面は、室内と高さを揃えているので、サッシを開放すると一続きの空間になる。そこを走り抜け、また力強く這い回る二人の幼い子を見ていると、審査するほうも爽やかな気持ちにさせられてしまう。

階段が2本あるのは、中庭を介して築30年と築20年の部分が合ったためである。いずれ1本にまとめられるらしいが、現状では、風通しや回遊動線を構成するうえでかえって有効に機能している。

表側2階バルコニーのルーバーは、既存バルコニーの形を生かして、正面から内側を見通されないような工夫がある。現代の材料を使って伝統的な繊細さが表現されているだけでなく、昔ながらの知恵が生かされているようで面白い。

この作品は、美しく機能的にまとめられているだけではない。若い家族が、これからも伸びやかに生活し続けられる大らかな空間を、リフォームによって生み出している。設計期間14日は、この内容の設計としてはかなり短い。住宅ローンを組む上での期間的制約と二重の家賃負担の回避という、止むを得ない理由による。しかし、時間と費用の制約がシンプルな美しさを生んだ一因であったかもしれない。確かな設計力が生んだ清々しさとバランスの良さ、完成度の高さは、全応募作品の中で抜き出ており、また、町家の再生事例としても優れており、国土交通大臣賞に値する。



リフォーム前後の写真



リフォームの動機/設計・施工の工夫点/施主の感想 など

《リフォームの動機》

- ・築30年の中古住宅を購入、新たな家族の為の新居として甦らせる。
- ・既存の古いイメージを一新し、リゾートホテルのような癒される空間にしたい。

《設計・施工の工夫点》

- ・コストを抑える為、既存水回りの位置は変えずにプランを考えた。
- ・密着した近隣環境の中でプライバシーを守りながら、明るくかつ開放的な生活が送れる様、中庭、テラスには横の目隠しルーバーを、道路面は既存の斜め壁を利用した縦の目隠しルーバーを設けた。また特に配慮した住宅性能：・耐震診断を行い、耐震補強を施した。

データ

所在地	京都府京都市	構造/築後年数	在来木造/30年
該当工事面積	143 m ² /総工事床面積	143 m ²	該当部分工事費 1,300 万円/総工事費 1,300 万円
居住者構成	15歳以上65歳未満： 2 人/65歳以上： 2 人	15歳未満： 2 人/ペット： 1 匹	
設計者	岸研一建築設計事務所 一級建築士事務所	担当者	岸 研一
施工者	(株)ヤマタケビルド	担当者	竹中 康男

- たルーバーには既存外壁を隠す化粧としての機能も持たせた。
- ・リビングは既存の高い天井高をより効果的に演出する為、照明は上向きの間接照明とし、目にもやさしい照明とした。
- ・2階はサッシを開放すると全長16.3mの一つの空間となり、仕切りのない空間ができ、家族の気配を感じられる間取りとした。

《施主の感想》

とても明るく開放的で見た目以上に広く感じられる。築30年とはとても思えない、お洒落な新居に大変満足しています。

リフォーム前



Before 1977-2005



リフォーム後



After 2006-

- 1. 玄関
- 2. 洗面所
- 3. 廊下
- 4. トイレ
- 5. 浴室
- 6. 洗面
- 7. 脱衣
- 8. キッチン
- 9. リビング・ダイニング
- 10. 中庭
- 11. 子供部屋
- 12. 階段
- 13. 洗濯機
- 14. 洗面
- 15. 浴室